

こんな人が活躍しています！

いきいきと自分らしく働ける環境がある。



産休・育休から復帰

福祉五法等業務
平成24年度採用

VOICE

出産・育児 安心して働ける環境

4歳と1歳の子どもを育てており、それぞれ2年間と1年間の産休・育休を取得しました。2人目の育休から復職してからは16時までの時短勤務をしています。1人目の妊娠が分かったときはうれしさの一方で不安もありましたが、周囲のサポートやさまざまな制度のおかげで無理なく仕事を続けられています。妊娠中は通勤緩和制度を利用して電車が混雑する時間帯を避けて通勤し、妊婦健診も平日に受けられました。また、出産後に大阪府外に引越しましたが、大阪市は市外からもアクセスしやすく、居住地が変わっても働き続けやすいです。制度面の充実はもちろんですが、それらを利用しやすい職場の風通しのよさは大阪市で働く何よりの魅力だと思います。



「福祉職員」の めざすもの

理念

福祉職員は、個人の尊厳と人権の尊重を原点に、質の高い福祉行政の実践により、市民の福祉の向上に貢献します。

めざす福祉職員像

福祉行政を担う専門職としての自覚と力量を備え、市民に寄り添い、熱い思いと冷静な思考をもとに最善を尽くす職員



「福祉職員」の 人材育成

OJT（職場研修）

職場での仕事を通じて、実践的な知識・技術を習得

- 新任教育
- 個別支援への指導、助言
- 指導者に対する支援、助言、育成 等



大阪市「福祉職員」
人材育成基本方針は

コチラ



Off-JT（職場外研修）

職場では得がたい専門知識・技術などを
体系的・集中的に学ぶ

- 業務別研修
- キャリア研修
- 階層別研修
- 専門研修 等



先輩からのメッセージ

大阪市福祉職員をめざすみなさんへ

大阪市の福祉職員の歴史は長く、めまぐるしく変化する社会情勢に対応するため、先輩が培ってきた専門職としての知識や経験、志を後輩に引き継ぎ、福祉行政を推進してきました。

高齢化、虐待、社会的孤立など様々な課題に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで以上人と人とのつながりの重要性が高まっています。大阪市では、身近な窓口である区役所や専門的な対応をするこども相談センター、市全体の施策に取り組む本庁など、それぞれの職場で福祉職員が中心的な役割を果たし、必要な人が必要な支援につながるよう日々奮闘しています。

自らの仕事に誇りを持ち、市民の福祉に貢献するため仲間と一緒に成長できること、それが大阪市福祉職員の魅力だと思います。



平野正長　大阪市 代表

1985年福祉職員として大阪市に入庁、区役所や本庁で生活保護分野をはじめとした福祉行政に長く携わる。令和3年度から現職。



子育て中

本庁
平成22年度採用

VOICE

1男3女、4人の子育て奮闘中 子どもの成長を近くで見守るために

「子どもを4人も育てながら働くって大変だね」とよく言われますが、育児を負担に感じたことはありません。それも家族と職場環境のおかげだと思います。実際、幼稚園の送迎や学校行事、習い事のスケジュール管理など大変なことはあるのは確かです。しかし、大阪市は有給休暇も取得しやすく、各種制度もきちんと整えられているので、授業参観などの学校行事も妻と協力してできる限り参加しています。また休日には、子どもと一緒に公園でサッカーをしたり、買い物や料理を楽しんだりしています。子どもはあつという間に大きくなるものです。成長を近くで見守れるように、今後も自分なりのワークライフバランスを大切にしていきたいと思っています。